

## 創造的住まい・まち学習の方法の確立と普及展開

住宅総合研究財団 住教育委員会 殿

「住まい」および「まち」に関する学習は、市民にとって身近で重要な課題にも関わらず、近年まで小・中・高等学校においてはその対象にされることは極めてまれであった。住宅総合研究財団は、1973 年以来多くの研究者を対象に研究助成を行い、住宅研究の振興に努めてきたが、1993 年、研究活動の一環として、学校のみならず家庭や地域における多様な市民を対象に、よりよい住まい・まちづくりの担い手を育むことを目的に、「住教育委員会」が設置された。多様な専門家によって構成された住教育委員会は、それぞれの専門分野を活かした運営を通じて、「住教育」を、「住まい」や「まち」を題材にした実践の活動により「生きる力」を育む場として、また関わった人々が相互に学びあう対話型教育の場として位置づけたパイオニア的存在であるといえよう。

主な活動は、「住教育フォーラム」と『『住まい・まち学習』実践報告・論文公募および発表会』の開催である。「住教育フォーラム」はこれまでに 20 回開催され、『『住まい・まち学習』実践報告・論文集』は 10 号まで発行された。また、フォーラムや発表会の記録は小冊子等にまとめられており、全国各地の学校教員や地域活動家にとって、住教育プログラムの有用な手がかりとなっている。何よりも、16 年間にわたる住教育に対する地道な自主的取組みは他に類を見ないものであり、特筆すべき活動である。

さらに、これらの活動を通して、「創造的住まい・まち学習の方法と枠組み」が確立された。「Educating（自ら学ぶ）」「地域の力」「総合学習」は、「気付く→対話する→発見する→表現する→評価する→実践する→次の活動を誘発する」というスパイラルアップを生み出すというものである。実践を通して体系的に体得するこの方法は、学科単位の学校教育を補完する方法として効果的との指摘もされている。また、一連の住教育活動をきっかけに分野横断型のネットワークが全国的に形成され、今後の継続的な活動が可能となったことも評価される。

2009 年 12 月にはこれまでの活動がまとめられ、「屋根のない学校」（萌文社）が発刊された。また、2009 年度からは、これまでの活動の成果が「住教育授業づくり助成」に継承されており、住教育の普及推進活動の展開が期待できる。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。